

調査票発送数:4000 施設

調査票発送 2003年11月15日

回収締め切り 2003年12月10日

C. 結果

回答施設総数:1713 施設(回答率:
42.8%)

施設ごとの回答施設数、回答率は以下の通りであった。

・ 介護老人福祉施設

回答施設数:505 施設、回答率:50.5%

・ 介護老人保健施設

回答施設数:414 施設、回答率:41.4%

・ 介護療養型医療施設

回答施設数:235 施設、回答率:23.5%

・ グループホーム

回答施設数:513 施設、回答率:51.3%

グループホームの回答率が最も高く、ついで介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の順であった。

1. 回答施設について

(1) 施設種別回答施設数、回答率

施設の種類に関して①介護老人福祉施設、②介護老人保健施設、③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院、④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所、⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院、⑥グループホームの6項目で回答を求めたところ、回答施設の施設種別の構成は以下の通りであった。

① 介護老人福祉施設:505 施設

② 介護老人保健施設:414 施設

③ 指定介護療養型医療施設:療養型

病床群を有する病院:167 施設

④ 指定介護療養型医療施設:療養型
病床群を有する診療所:59 施設

⑤ 指定介護療養型医療施設:老人性
痴呆疾患療養病棟を有する病院:9 施設

⑥ グループホーム:513 施設

⑦ 無回答 回答施設:46施設

グループホームからの回答が最も多く、ついで介護老人福祉施設、介護老人保健施設、指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院の順であった。

(2) 回答施設全体に対する施設種の割合

①介護老人福祉施設(29.5%)、②介護老人保健施設(24.2%)、③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院(9.7%)、④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所(3.4%)、⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院(0.5%)、⑥グループホーム(29.9%)、⑦無回答(2.7%)

回答施設全体に対する割合はグループホームがもっとも高く、ついで介護老人福祉施設、介護老人保健施設の順で、指定介護療養型医療施設は療養型病床群を有する病院、療養型病床群を有する診療所、老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院とも割合は低かった(図1)。

以下の設問の集計に関しては設問1で解答を求めた6群の施設種別に行っている。

(3) 回答施設専門職員数

回答施設全体の常勤総職員数の平均±標準偏差は 30.6±35.8 人であった。施設種別の専門職の常勤総職員総数の平均±S.D.は

- ①介護老人福祉施設:29.7±17.2 人、
- ②介護老人保健施設:43.2±17.7 人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:77.6±80.4 人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:12.1±6.7 人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:72.6±47.8 人、
- ⑥グループホーム:6.7±5.0 人、
- ⑦無回答:33.4±32.6 人

施設種別の専門職の常勤総職員総数では指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院、指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院の総職員数が多く、グループホーム、指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所の総職員数は少なかった(図2)(表1-1)。施設に勤務する専門職を以下の12職種ごとに常勤と非常勤に分類し集計を行った。

A) 常勤医師

回答施設全体の常勤医師数の平均±標準偏差は 0.9±2.5 人であった(図3)。

施設種別の常勤医師の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.1±0.2 人、
- ②介護老人保健施設:1.1±1.2 人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病

床群を有する病院:5.1±5.9 人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:1.3±0.5 人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:4.6±2.7 人、

⑥グループホーム:0.0±0.1 人、

⑦無回答:0.6±1.1 人であった。

B) 常勤保健師・看護師

回答施設全体の 1 の平均±標準偏差は 7.5±16.2 人であった(図4)。

施設種別の常勤保健士・看護師数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:3.6±2.0 人、

②介護老人保健施設:9.7±3.7 人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:33.5±40.1 人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:6.5±4.0 人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:46.4±35.4 人、

⑥グループホーム:0.5±0.9 人、

⑦無回答:7.0±8.7 人(表1-2)。

C) 常勤歯科医師

常勤歯科医師のいる施設は合計17施設であった。内訳は指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院が13施設、グループホームが2施設、介護老人保健施設と指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する診療所が各1施設であった。

回答施設全体の常勤歯科医師数の平均±標準偏差は 0.0±0.1 人であった(図5)(表1-3)。

施設種別の常勤歯科医師の平均±標

標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.0±0.0人、
- ②介護老人保健施設:0.0±0.1人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.1±0.5人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.1人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±0.0人、
- ⑥グループホーム:0.0±0.1人、
- ⑦無回答:0.0±0.0人であった。

D)常勤歯科衛生士

常勤歯科衛生士のいる施設は合計 42 施設であった。内訳は指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院が 19 施設、介護老人保健施設が14 施設、グループホームが 6 施設であった

回答施設全体の常勤歯科衛生士数の平均±標準偏差は 0.0±0.3 人であった(図6)(表1-4)。

施設種別の常勤歯科衛生士数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.0±0.1人、
- ②介護老人保健施設:0.0±0.3人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.3±0.8人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.1人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±0.0人、
- ⑥グループホーム:0.0±0.1人、
- ⑦無回答:0.0±0.0人であった。

E)常勤介護支援専門員

回答施設全体の常勤介護支援専門員数の平均±標準偏差は 2.1±3.1 人であった(図7)。

施設種別の常勤介護支援専門員数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:2.6±2.9人、
- ②介護老人保健施設:2.6±2.9人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:3.8±5.4人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:1.1±1.3人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:3.1±4.6人、
- ⑥グループホーム:0.6±1.3人、
- ⑦無回答:2.0±2.5人であった。

F)常勤ケース・ソーシャルワーカー

回答施設全体の常勤ケース・ソーシャルワーカー数の平均±標準偏差は 0.8±2.6 人であった(図8)。

施設種別の常勤ケース・ソーシャルワーカー数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.7±1.9人、
- ②介護老人保健施設:1.5±3.2人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.9±1.7人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.1±0.3人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:2.3±1.7人、
- ⑥グループホーム:0.1±0.8人、
- ⑦無回答:3.1±9.8人であった。

G)常勤理学療法士

回答施設全体の常勤理学療法士数の平均±標準偏差は 0.5±1.3 人であった

(図9)。

施設種別の常勤理学療法士数の平均
±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.0±0.2人、
- ②介護老人保健施設:1.1±0.8人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する病院:2.5±2.9人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する診療所:0.3±0.7人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴
呆疾患療養病棟を有する病院:0.8±
1.6人、
- ⑥グループホーム:0.0±0.0人、
- ⑦無回答:0.4±1.1人であった。

H)常勤作業療法士

回答施設全体の常勤作業療法士数の
平均±標準偏差は0.4±1.2人であった
(図10)。

施設種別の常勤作業療法士数の平均
±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.1±0.36、
- ②介護老人保健施設:0.9±1.0人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する病院:1.4±2.9人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する診療所:0.0±0.3人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴
呆疾患療養病棟を有する病院:2.4±
1.9人、
- ⑥グループホーム:0.0±0.1人、
- ⑦無回答:0.4±0.9人であった。

I)常勤言語聴覚士

回答施設全体の常勤言語聴覚士数の
平均±標準偏差は0.1±0.5人であった
(図11)。

施設種別の常勤言語聴覚士数の平均

±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.0±0.1、
- ②介護老人保健施設:0.2±0.5人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する病院:0.6±1.2人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する診療所:0.0±0.0人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴
呆疾患療養病棟を有する病院:0.1±
0.3人、
- ⑥グループホーム:0.0±0.0人、
- ⑦無回答:0.1±0.3人であった。

J)常勤社会福祉士

回答施設全体の常勤社会福祉士数の
平均±標準偏差は0.5±1.1人であった
(図12)。

施設種別の常勤社会福祉士数の平均
±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.8±1.4、
- ②介護老人保健施設:0.7±1.2人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する病院:0.4±1.1人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する診療所:0.1±0.3人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴
呆疾患療養病棟を有する病院:0.8±
1.0人、
- ⑥グループホーム:0.2±0.6人、
- ⑦無回答:0.9±2.1人であった。

K)常勤介護福祉士

回答施設全体の常勤介護福祉士数の
平均±標準偏差は9.5±9.4人であった
(図13)。

施設種別の常勤介護福祉士数の平均
±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:13.5±8.4、

- ②介護老人保健施設:15.6±9.7人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:7.2±9.5人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.7±1.2人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:9.1±12.8人、
- ⑥グループホーム:2.4±2.0人、
- ⑦無回答:7.2±8.9人であった。

L)常勤栄養士

回答施設全体の常勤栄養士数の平均±標準偏差は1.0±1.1人であった(図14)。

施設種別の常勤栄養士数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:1.2±0.8、
- ②介護老人保健施設:1.3±0.8人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:1.8±1.5人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.7±0.8人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:2.0±2.1人、
- ⑥グループホーム:0.2±0.9人、
- ⑦無回答:0.9±0.7人であった。

回答施設全体の非常勤総職員数の平均±標準偏差は7.1±9.0人であった(図15)。

施設種別の専門職の非常勤総職員総数の平均±S.D.は

- ①介護老人福祉施設:6.9±9.0人、
- ②介護老人保健施設:7.2±7.2人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病

床群を有する病院:13.4±15.2人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:4.3±3.9人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:7.6±5.5人、

⑥グループホーム:4.1±3.8人、

⑦無回答:6.0±8.8人

(表1-5)

a)非常勤医師

回答施設全体の非常勤医師数の平均±標準偏差は1.2±2.6人であった(図16)。

施設種別の非常勤医師数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:1.4±1.0、
- ②介護老人保健施設:0.7±1.1人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:4.9±6.2人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.6±1.1人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:2.1±2.9人、
- ⑥グループホーム:0.1±0.4人、
- ⑦無回答:1.5±3.4人であった。

b)非常勤保健師・看護師

回答施設全体の非常勤保健師・看護師数の平均±標準偏差は1.0±2.5人であった(図17)。

施設種別の非常勤保健師・看護師数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.8±1.3、
- ②介護老人保健施設:1.5±2.3人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:3.1±5.7人、

- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:1.3±2.3人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:1.0±1.0人、
- ⑥グループホーム:0.2±0.6人、
- ⑦無回答:1.1±2.9人であった(表1-6)。

c)非常勤歯科医師

非常勤歯科医師のいる施設は111施設で、うち5施設は常勤歯科医師のいる施設であった。内訳は介護老人福祉施設が58施設、介護老人保健施設が22施設、指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院が16施設、グループホーム9施設、指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する診療所と老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院が各1施設であった。

回答施設全体の非常勤歯科医師数の平均±標準偏差は0.1±0.4人であった(図18)(表1-7)。

施設種別の非常勤歯科医師数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.1±0.4、
- ②介護老人保健施設:0.1±0.3人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.2±0.6人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.1人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.5±1.3人、
- ⑥グループホーム:0.0±0.1人、
- ⑦無回答:0.1±0.4人であった。

d)非常勤歯科衛生士

非常勤歯科衛生士のいる施設は合計52施設であった。うち6施設は常勤歯科衛生士のいる施設であった。内訳は介護老人福祉施設17施設、介護老人保健施設14施設、指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院が13施設、グループホームの6施設であった。

回答施設全体の非常勤歯科衛生士数の平均±標準偏差は0.1±0.3人であった(図19)。

施設種別の非常勤歯科衛生士数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.1±0.4、
- ②介護老人保健施設:0.0±0.3人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.1±0.5人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.0人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.4±1.0人、
- ⑥グループホーム:0.0±0.1人、
- ⑦無回答:0.0±0.2人であった(表1-8)。

e)非常勤介護支援専門員

回答施設全体の非常勤介護支援専門員数の平均±標準偏差は0.1±0.7人であった(図20)。

施設種別の非常勤介護支援専門員数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:0.1±0.8、
- ②介護老人保健施設:0.2±0.7人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.2±0.8人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.2±0.7人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±0.0人、

⑥グループホーム:0.1±0.6人、

⑦無回答:0.1±0.3人であった。

f)非常勤ケース・ソーシャルワーカー
回答施設全体の非常勤ケース・ソーシャルワーカー数の平均±標準偏差は0.1±0.4人であった(図21)。

施設種別の非常勤ケース・ソーシャルワーカー数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:0.1±0.6、

②介護老人保健施設:0.1±0.4人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.0±0.2人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.0人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±0.0人、

⑥グループホーム:0.0±0.4人、

⑦無回答:0.2±0.7人であった。

g)非常勤理学療法士

回答施設全体の非常勤理学療法士数の平均±標準偏差は0.3±0.9人であった(図22)。

施設種別の非常勤理学療法士数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:0.3±0.6、

②介護老人保健施設:0.6±1.5人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.2±0.5人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.2±0.6人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.3±0.7人、

⑥グループホーム:0.0±0.1人、

⑦無回答:0.2±0.4人であった。

h)非常勤作業療法士

回答施設全体の非常勤作業療法士数の平均±標準偏差は0.1±0.4人であった(図23)。

施設種別の非常勤作業療法士数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:0.1±0.3、

②介護老人保健施設:0.3±0.7人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.1±0.4人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.1±0.3人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.5±0.7人、

⑥グループホーム:0.0±0.0人、

⑦無回答:0.1±0.4人であった。

i)非常勤言語聴覚士

回答施設全体の非常勤言語聴覚士数の平均±標準偏差は0.0±0.2人であった(図24)。

施設種別の非常勤言語聴覚士数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:0.0±0.2、

②介護老人保健施設:0.1±0.3人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.1±0.2人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.1人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±

0.0 人、

⑥グループホーム:0.0±0.0 人、

⑦無回答:0.0±0.0 人であった。

j)非常勤社会福祉士

回答施設全体の非常勤社会福祉士数の平均±標準偏差は0.0±0.3 人であった(図25)。

施設種別の非常勤社会福祉士数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:0.0±0.1、

②介護老人保健施設:0.1±0.6 人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.0±0.1 人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.0 人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±0.0 人、

⑥グループホーム:0.0±0.2 人、

⑦無回答:0.0±0.2 人であった。

k)非常勤介護福祉士

回答施設全体の非常勤介護福祉士数の平均±標準偏差は0.5±2.0 人であった(図26)。

施設種別の非常勤介護福祉士数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:0.8±2.9、

②介護老人保健施設:0.5±1.9 人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.0±0.2 人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.0±0.2 人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±0.0 人、

⑥グループホーム:0.3±1.2 人、

⑦無回答:0.2±0.6 人であった。

l)非常勤栄養士

回答施設全体の非常勤栄養士数の平均±標準偏差は0.1±0.4 人であった(図27)。

施設種別の非常勤栄養士数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:0.0±0.2、

②介護老人保健施設:0.0±0.2 人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:0.1±0.3 人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.1±0.3 人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:0.0±0.0 人、

⑥グループホーム:0.1±0.7 人、

⑦無回答:0.1±0.3 人であった。

(3)回答施設入所者(入居者)数

回答施設全体の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は54.6±73.8 人であった(図28)。

施設種別の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は

①介護老人福祉施設:67.3±28.1 人、

②介護老人保健施設:90.1±114.1 人、

③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:74.3±101.9 人、

④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:8.6±5.0 人、

⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:64.8±63.5 人、

⑥グループホーム:12.3±6.5 人、

⑦無回答:53.2±40.7 人であった(表1-9)。

回答施設の入所者(入居者)を介護度別に分析すると

A) 要介護度 1

回答施設全体の要介護度 1 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は 5.7±6.7 人であった(図29)。

施設種別の要介護度 1 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:5.2±5.0、
- ②介護老人保健施設:11.2±9.0 人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:2.9±6.1 人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.7±1.2 人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:1.1±1.1 人、
- ⑥グループホーム:3.4±3.1 人、
- ⑦無回答:5.1±6.7 人であった(表1-10)。

B) 要介護度 2

回答施設全体の要介護度 2 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は 8.6±13.4 人であった(図30)。

施設種別の要介護度 2 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:8.6±5.8、
- ②介護老人保健施設:17.5±22.9 人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:4.3±9.0 人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:0.9±1.6 人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:4.6±6.8 人、
- ⑥グループホーム:4.0±3.1 人、

⑦無回答:8.1±7.8 人であった(表1-11)。

C) 要介護度 3

回答施設全体の要介護度 3 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は 10.9±20.6 人であった(図31)。

施設種別の要介護 3 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:12.1±6.9、
- ②介護老人保健施設:22.2±37.5 人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:7.9±12.3 人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:1.1±1.5 人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:12.0±13.2 人、
- ⑥グループホーム:3.0±2.1 人、
- ⑦無回答:10.2±9.7 人であった(表1-12)。

D) 要介護度 4

回答施設全体の要介護度 4 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は 14.4±23.1 人であった(図32)。

施設種別の要介護度 4 の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:19.7±9.4、
- ②介護老人保健施設:24.2±38.0 人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する病院:18.9±25.6 人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病床群を有する診療所:1.9±2.1 人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院:19.3±16.5 人、
- ⑥グループホーム:1.3±1.5 人、

⑦無回答:13.1±13.5 人であった
(表1-13)。

E) 要介護度 5

回答施設全体の要介護度 5 の入所者
(入居者)数の平均±標準偏差は 13.5
±17.4 人であった(図33)。

施設種別の要介護 5 の入所者(入居
者)数の平均±標準偏差は

- ①介護老人福祉施設:20.9±10.7、
- ②介護老人保健施設:14.9±13.1 人、
- ③指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する病院:30.9±34.2 人、
- ④指定介護療養型医療施設:療養型病
床群を有する診療所:2.9±2.9 人、
- ⑤指定介護療養型医療施設:老人性痴
呆疾患療養病棟を有する病院:23.8±
31.5 人、
- ⑥グループホーム:0.4±0.9 人、
- ⑦無回答:11.1±13.5 人であった
(表1-14)。

D. 考察

回答施設総数は 1713 施設(回答率:
42.8%)で前回の病院調査での回答率
30.0%と比較し高値をしめした。サンプリ
ング調査と全数調査の違いがあり、一概
に考察できないが、調査方法の見直し、
改善の他に、病院といった治療を主体
とした施設よりも、今回の対象施設は介
護に重点がおかれているためと思われ
た。つまり、日常業務の中での口腔ケア
への関与、関心が大きいためと考えら
れる。
施設ごとの回答施設数、回答率はグル
ープホームが最も高く、ついで介護老
人福祉施設、介護老人保健施設、介護

療養型医療施設の順であった。これは
施設規模や口腔ケアへの関与、関心の
割合が影響しているものと思われる。

1. 回答施設について

(1)施設種別回答施設数

施設の種類に関して6項目で回答を求
めたところ、施設種別の回答施設数(回
答施設全体に占める割合)はグループ
ホームが 513 施設(29.9%)と最も多く、
介護老人福祉施設が 505 施設(29.5%)、
介護老人保健施設が 414 施設(24.2%)
であった。指定介護療養型医療施設の
療養型病床群を有する病院は 167 施設
(9.7%)、療養型病床群を有する診療
所は 59 施設(3.4%)、老人性痴呆疾患
療養病棟を有する病院は 9 施設
(0.5%)で指定介護療養型医療施設の
割合は低く特に療養型病床群を有する
診療所と老人性痴呆疾患療養病棟を
有する病院の割合は有意に低かった。
本調査データからは3種の指定介護療
養型医療施設ごとの回答率を知ること
は出来なかった。指定介護療養型医療
施設の療養型病床群を有する診療所と
老人性痴呆疾患療養病棟は施設規模
やその性質も他施設と異なり、全体の集
計結果に影響することが予想されるが、
全体に占める割合は低いためその影響
は少ないと考える。

(2)回答施設専門職員数

回答施設全体の常勤総職員数の平均
±標準偏差は 30.6±35.8 人であった。
最も常勤総職員数が多いのは指定介
護療養型医療施設のうち療養型病床群
を有する病院と老人性痴呆疾患療養病
棟を有する病院であった。これは施設

規模が大きいことを示しており、その施設の性質上介護度が高い入所者が多いためと考えられる。反対に回答の多かったグループホームは最も常勤総職員数が少なく、これは規模が小さく、利用者の介護度が低いことを示唆するものと思われる。

回答施設全体の非常勤総職員数の平均±標準偏差は7.1±9.0人であった。また非常勤総職員数が多いのは指定介護療養型医療施設のうち療養型病床群を有する病院であった。すべての施設で常勤職員数が非常勤職員数を上回っているものの、グループホームでは常勤と非常勤職員の差は少なく、その業務内容への影響が示唆された。

以下は専門職員数について専門職別、施設種別に考察を行った。

A) 常勤医師

回答施設全体の常勤医師数の平均±標準偏差は0.9±2.5人であった。施設種別では指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院と老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院を除いたほとんどの施設が常勤医師はいないか1ないし2名という結果であった。これはこの2つの施設が他の施設よりも、介護より医療という側面が大きいためと考えられる。非常勤医師に関しても同様の傾向が認められた。また介護老人福祉施設とグループホームに関しては常勤医師より非常勤医師の割合が多く、医療より介護の側面が大きいことが示唆された。

常勤・非常勤を問わず、医師が勤務していないと回答した施設は517施設

(30.2%)で、そのほとんどがグループホームであった。

B) 保健師・看護師

回答施設全体の常勤保健師・看護師数の平均±標準偏差は7.5±16.2人であった。施設種別では指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院と老人性痴呆疾患療養病棟を有する病院が多かった。これらの施設はその機能および規模も他施設とは異なっているためと思われた。

回答施設全体の非常勤保健師・看護師数の平均±標準偏差は1.0±2.5人であった。施設種別では指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院と老人性痴呆疾患療養病棟での常勤保健師・看護師数に対する非常勤保健師・看護師数の割合は他施設と比較して有意に低く、医療、介護への影響が示唆された。

常勤・非常勤を問わず、保健師・看護師が勤務していないと回答した施設は295施設(17.2%)で、そのほとんどがグループホームであった。

C) 歯科医師

回答施設全体の常勤歯科医師数の平均±標準偏差は0.0±0.1人、非常勤歯科医師数の平均±標準偏差は0.1±0.4人であった。つまり回答した施設のほとんどが歯科を有していないこととなる。常勤歯科医師のいる施設は合計17施設で指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院が13施設と最も多く、ついでグループホームの2施設であった。

非常勤歯科医師のいる施設は111施設

で、うち 5 施設は常勤歯科医師のいる施設であった。つまり回答した施設のうち常勤、非常勤を問わず歯科医師のいる施設は 123 施設(2.9%)であった。施設種別では介護老人福祉施設が58施設と最も多く、ついで介護老人保健施設の 22 施設であった。

D) 歯科衛生士

回答施設全体の常勤歯科衛生士数の平均±標準偏差は 0.0 ± 0.3 人であった。前述の常勤歯科医師と比較すると高値であった。常勤歯科衛生士のいる施設は合計 42 施設で指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院が 19 施設と最も多く、ついで介護老人保健施設の14施設、グループホームの 6 施設であった。非常勤歯科衛生士数の平均±標準偏差は 0.1 ± 0.3 人であった。歯科衛生士は非常勤として勤務していることが多いことが示唆された。常勤と非常勤の歯科衛生士が勤務している施設は 6 施設で、非常勤歯科衛生士のみ勤務している施設は 46 施設であった。つまり常勤、非常勤に関わらず歯科衛生士が勤務している施設は 88 施設であった。施設種別では老人福祉施設が 17 施設と最も多く、ついで介護老人保健施設 14 施設、指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する病院の 13 施設であった。

常勤、非常勤を問わず歯科医師ないしは歯科衛生士の勤務している施設は 161 施設(9.4%)であった。このうち歯科衛生士のみ勤務する施設は 38 施設であった。これら歯科医療従事者の勤務の有無が本調査の結果にどのように影

響しているか検索する必要があると思われる。

E) 常勤介護支援専門員

回答施設全体の常勤介護支援専門員数の平均±標準偏差は 2.1 ± 3.1 人であった。常勤介護支援専門員がいないと回答した施設は392施設、回答施設全体の 22.9%であった。

非常勤介護支援専門員数の平均±標準偏差は 0.1 ± 0.7 人であった。常勤・非常勤を問わず、介護支援専門員が勤務していないと回答した施設は361施設(21.5%)であった。

F) ケース・ソーシャルワーカー

回答施設全体の常勤ケース・ソーシャルワーカー数の平均±標準偏差は 0.8 ± 2.6 人であった。常勤ケース・ソーシャルワーカーがいないと回答した施設は 1123 施設で、回答施設全体の 65.6%であった。

回答施設全体の非常勤ケース・ソーシャルワーカー数の平均±標準偏差は 0.1 ± 0.4 人であった。

常勤・非常勤を問わず、ケース・ソーシャルワーカーが勤務していないと回答した施設は 1121 施設(65.4%)であった。すなわちケース・ソーシャルワーカーは常勤の割合が多いということになる。

G) 理学療法士

回答施設全体の常勤理学療法士数の平均±標準偏差は 0.5 ± 1.3 人であった。常勤理学療法士がいないと回答した施設は 1210 施設で答施設全体の 70.6%であった。

回答施設全体の非常勤理学療法士数の平均±標準偏差は 0.3 ± 0.9 人で、非

常勤の割合が他職種と比較し高い傾向にあった。

常勤・非常勤を問わず、理学療法士が勤務していないと回答した施設は 1043 施設 (60.9%) であった。

H) 作業療法士

回答施設全体の常勤作業療法士数の平均±標準偏差は 0.4 ± 1.2 人であった。常勤作業療法士がいないと回答した施設は 1307 施設で答施設全体の 76.2% であった。

回答施設全体の非常勤作業療法士数の平均±標準偏差は 0.1 ± 0.4 人であった。

常勤・非常勤を問わず、作業療法士が勤務していないと回答した施設は 1245 施設 (72.7%) であった。

I) 言語聴覚士

回答施設全体の常勤言語聴覚士数の平均±標準偏差は 0.1 ± 0.5 人であった。常勤言語聴覚士がいないと回答した施設は 1547 施設で答施設全体の 90.3% であった。

回答施設全体の非常勤言語聴覚士数の平均±標準偏差は 0.0 ± 0.2 人であった。

常勤・非常勤を問わず、言語聴覚士が勤務していないと回答した施設は 1506 施設 (87.9%) であった。

言語聴覚士は常勤・非常勤とも理学療法士、作業療法士と比較して低値であった。言語聴覚士は言語、摂食・嚥下指導を行うことから、口腔の機能、清掃状態を含めた評価を行うことができる専門職である。つまり言語聴覚士の関与が回答施設において少ないということは、

口腔状態の評価が十分行われていない可能性を示唆するものと思われる。

J) 社会福祉士

回答施設全体の常勤社会福祉士数の平均±標準偏差は 0.5 ± 1.1 人であった。常勤社会福祉士がいないと回答した施設は 1147 施設で答施設全体の 67.0% であった。

回答施設全体の非常勤社会福祉士数の平均±標準偏差は 0.0 ± 0.3 人であった。

常勤・非常勤を問わず、社会福祉士が勤務していないと回答した施設は 1137 施設 (66.3%) であった。

K) 介護福祉士

回答施設全体の常勤介護福祉士数の平均±標準偏差は 9.5 ± 9.4 人であった。常勤介護福祉士がいないと回答した施設は 198 施設で答施設全体の 11.9% であった。

常勤・非常勤を問わず、介護福祉士が勤務していないと回答した施設は 182 施設 (10.6%) であった。

L) 常勤栄養士

回答施設全体の常勤栄養士数の平均±標準偏差は 1.0 ± 1.1 人であった。常勤栄養士がいないと回答した施設は 531 施設で答施設全体の 31.0% であった。

常勤・非常勤を問わず、介護福祉士が勤務していないと回答した施設は 500 施設 (29.2%) であった。

職種別に回答施設とのかかわりを考えると歯科医師、歯科衛生士のどちらも勤務していない施設は 90.6%、言語聴覚

士が勤務していない施設が 87.9%と高く、言語、摂食・嚥下機能を含めた口腔機能に関わる職種の間与が少ないことが推察された。

(3) 回答施設入所者(入居者)数

回答施設全体の入所者(入居者)数の平均±標準偏差は 54.6±73.8 人であった。

施設種別の入所者(入居者)数では指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する診療所とグループホームの入所者数は他施設とくらべて有意に少ないという結果であった。

回答施設の入所者(入居者)を介護度別に分析すると施設種別では有意にグループホーム入所者の介護度は他の施設と比較して低かった。

施設種別の入所者(入居者)総数ならびに入所者の介護度の違いは施設種別の本調査結果に影響する因子であることが予想される。

E. 結論

今回の調査は介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、グループホームを対象とし、各々 1000 施設を無作為系統抽出した。その結果 42.8%の回答率を得、前回の病院調査での回答率 30.0%と比較し高い値となった。これは調査方法の見直し、改善によるところも大きいと考えられるが、病院といった治療を主体とした施設よりも、今回の対象施設は介護に重点がおかれているためと思われた。つまり、日常業務の中での口腔ケアへの関与、関心が大きいためと考えられた。

施設ごとの回答施設数、回答率はグループホームの回答率が最も高く、ついで介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設の順であった。これは施設規模や口腔ケアへの関与、関心の割合が影響しているものと思われる。

常勤、非常勤を問わず歯科医師ないしは歯科衛生士の勤務している施設は 161 施設であった。このうち歯科衛生士のみ勤務する施設は 38 施設であった。これら歯科医療従事者の勤務の有無が本調査の結果にどのように影響しているか検索する必要があると思われた。

職種別に回答施設とのかかわりを考えると歯科医師、歯科衛生士のどちらも勤務していない施設は 90.6%、言語聴覚士が勤務していない施設が 87.9%と高く、言語、摂食・嚥下機能を含めた口腔機能に関わる職種の間与が少ないことが示唆された。

施設種別の入所者(入居者)数では指定介護療養型医療施設の療養型病床群を有する診療所とグループホームの入所者数は他施設とくらべて有意に少ないという結果であった。

回答施設の入所者(入居者)を介護度別に分析すると施設種別では有意にグループホーム入所者の介護度は他の施設と比較して低かった。

施設種別の入所者(入居者)総数ならびに入所者の介護度の違いは施設種別の本調査結果に影響する因子であることが予想された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産の出願・登録状況

なし

図1 施設の種類

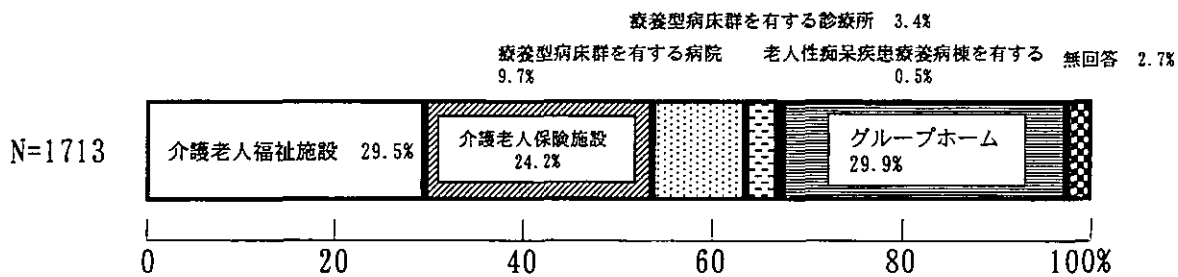


図2 専門職人数 (総職員数 常勤)

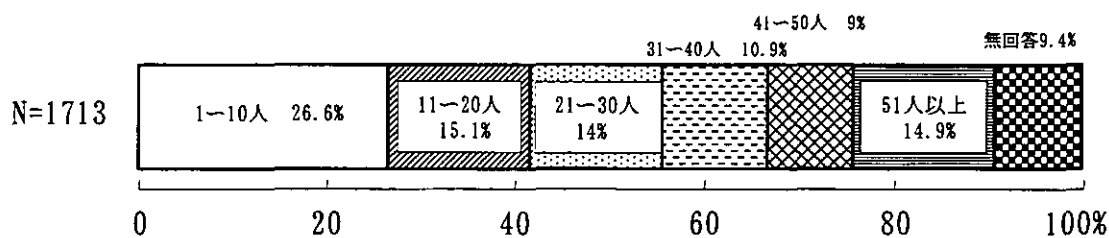


図3 専門職人数 (医師 常勤)

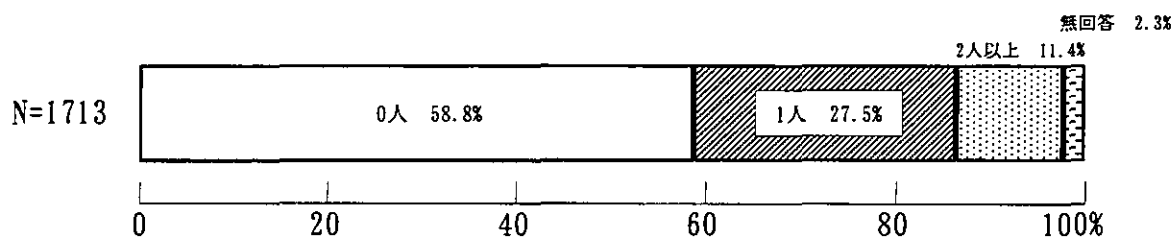


図4 専門職人数 (保健師・看護師 常勤)

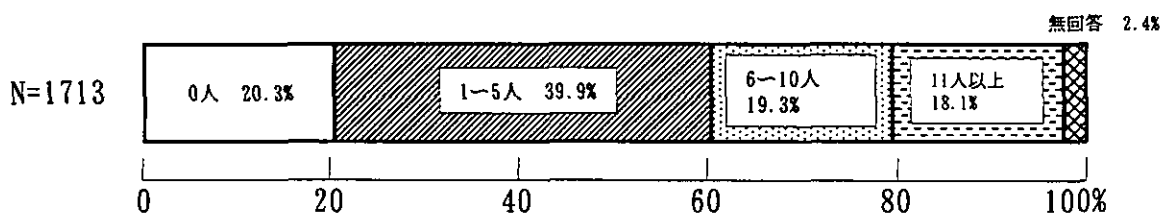


図5 専門職人数 (歯科医師 常勤)

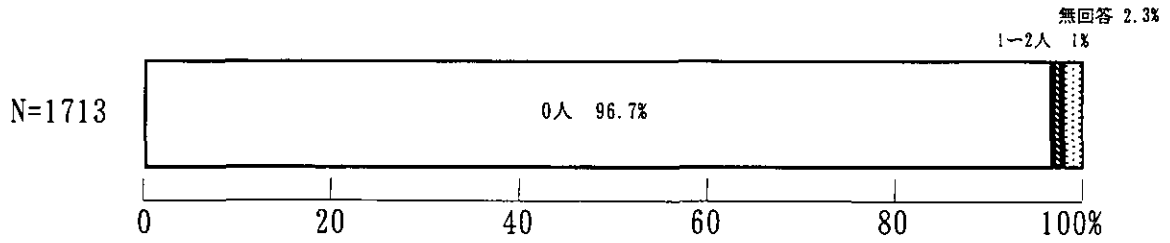


図6 専門職人数 歯科衛生士 (常勤)

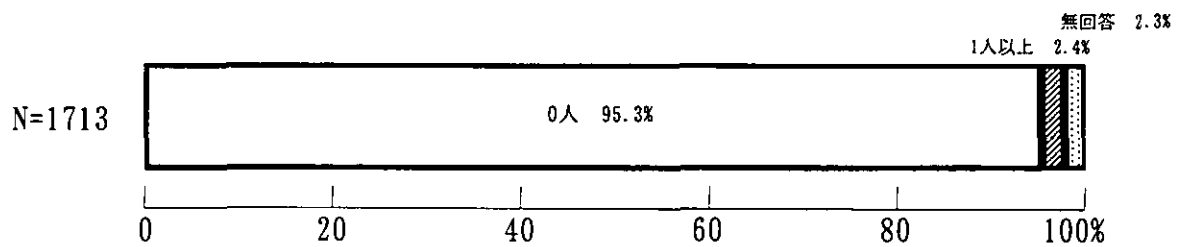


図7 専門職人数 (介護支援専門師 常勤)

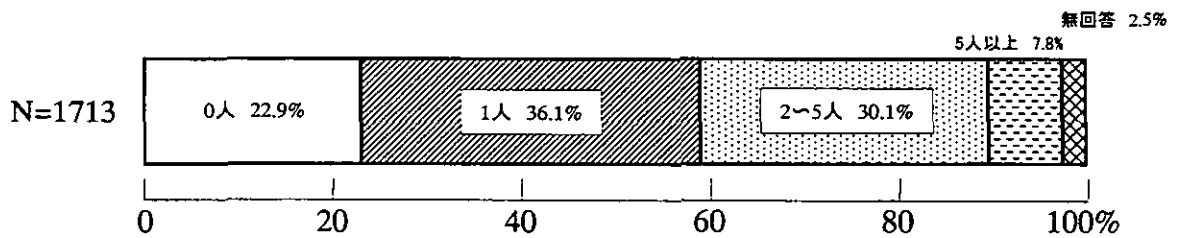


図8 専門職人数 (ケース・ソーシャルワーカー 常勤)

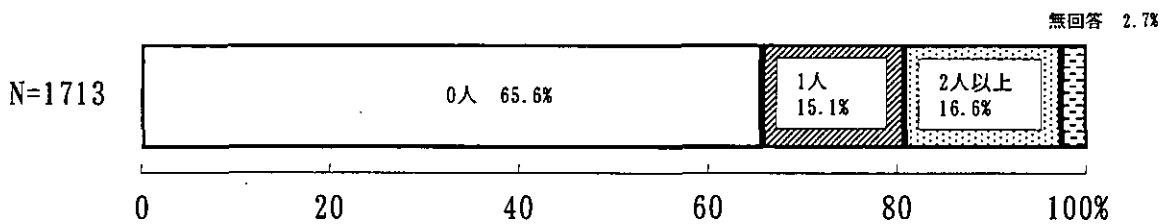


図9 専門職人数 (理学療法士)

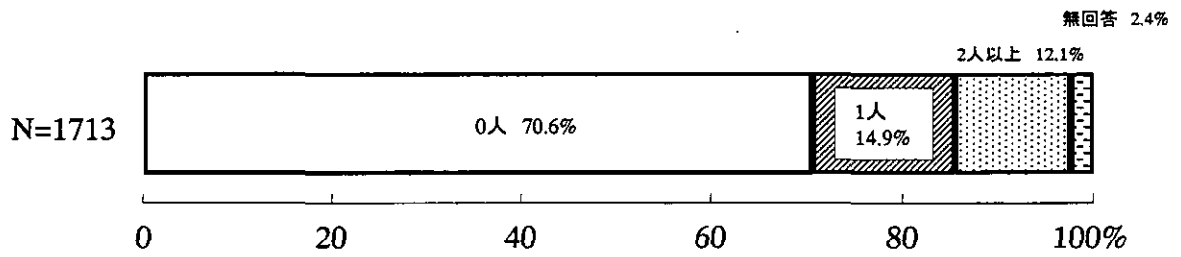


図10 専門職人数 (作業療法士 常勤)

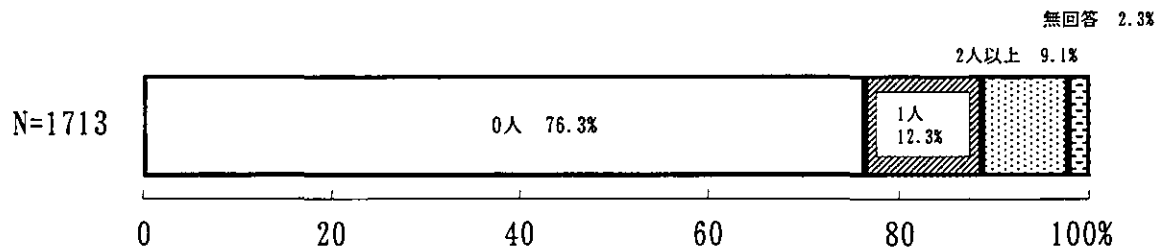


図11 専門職人数 (言語聴覚士 常勤)

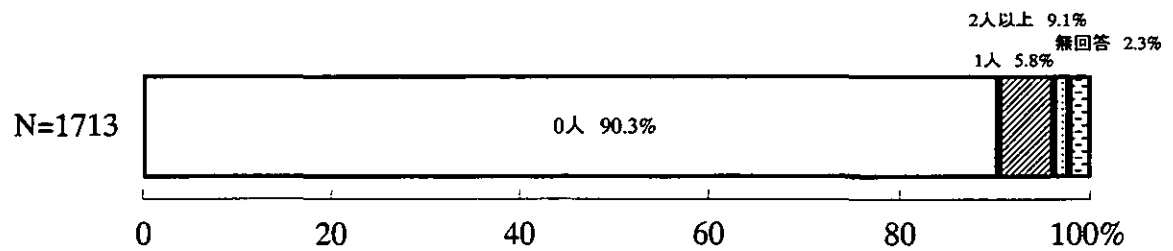


図12 専門職人数 (社会福祉士 常勤)

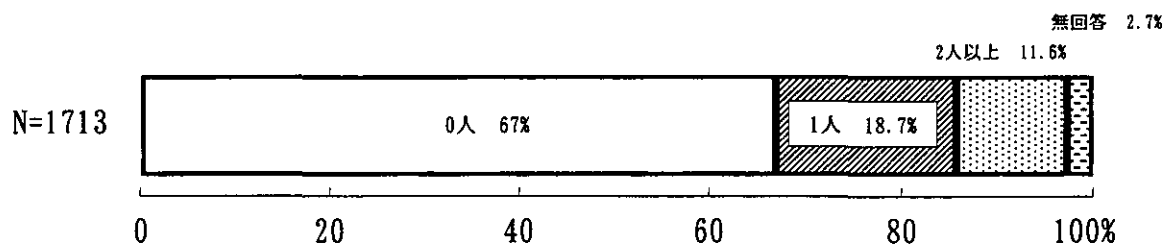


図13 専門職人数 (介護福祉士 常勤)

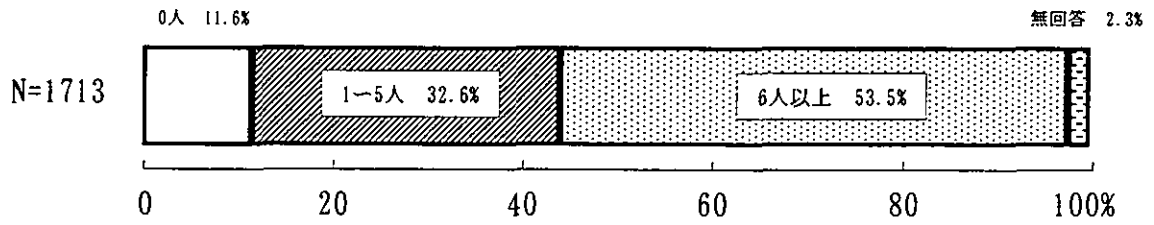


図14 専門職人数 (栄養士 常勤)

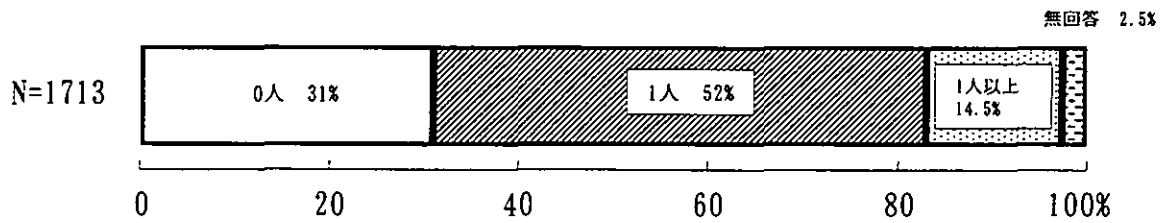


図15 専門職人数 (総職員数 非常勤)

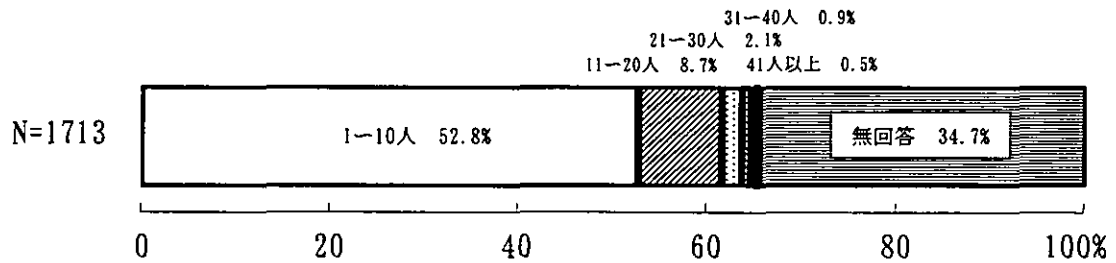


図16 専門職人数 (医師 非常勤)

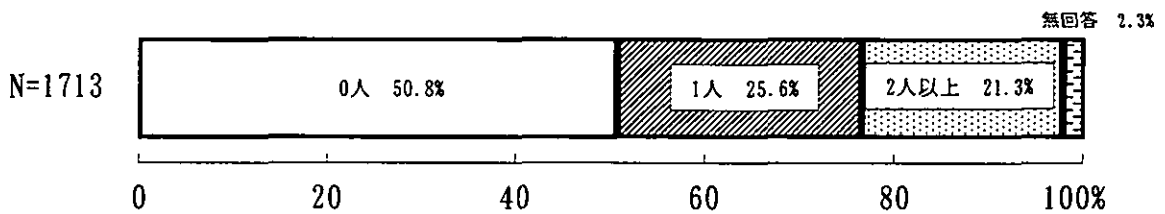


図 1 7 専門職人数 (保健師・看護師 非常勤)

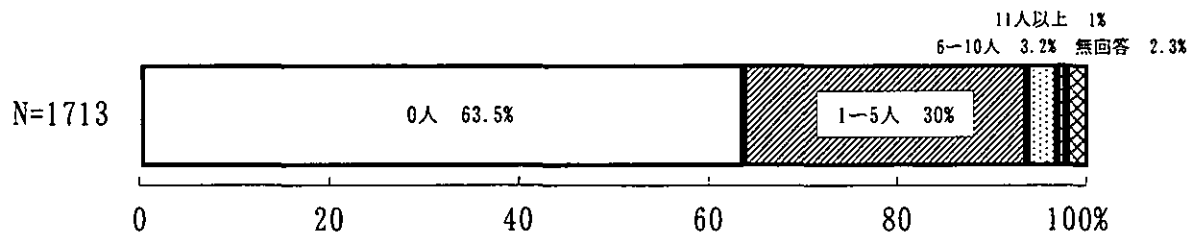


図 1 8 専門職人数 (歯科医師 非常勤)

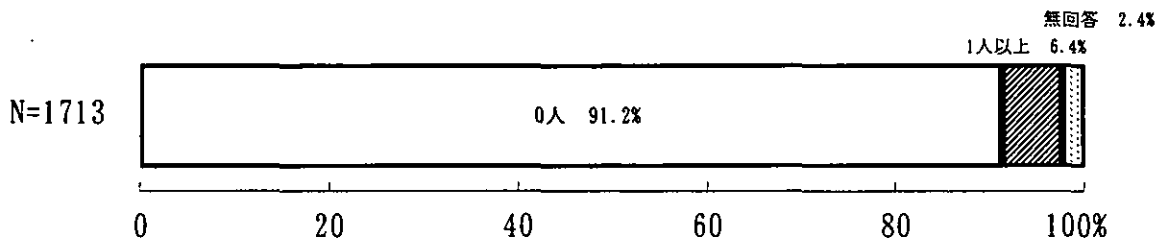


図 1 9 専門職人数 (歯科衛生士 非常勤)

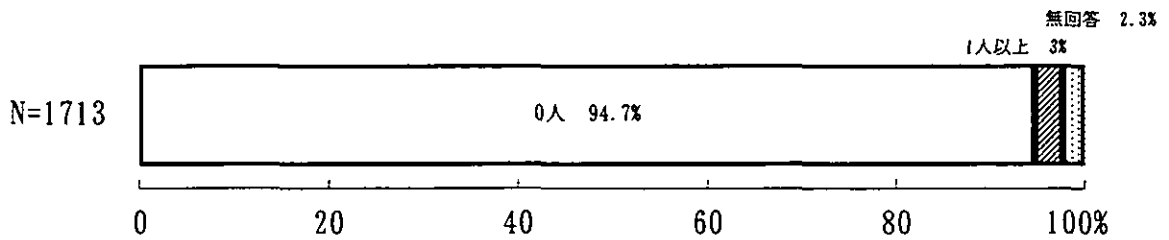


図 2 0 専門職人数 (介護支援専門師 非常勤)

